

2 事業の進捗状況等

評価基準 A:特に問題なし、B:問題あるが解決の見込みあり、C:問題があり解決が難しい

(百万円)

全体事業費		事業 執行額	年度別執行額	
前回	今回 (前回差)		～30年度	31年度見込
4,209	4,209 (±0%)	3,909	3,909	184

(1)現状及び見通し [評価(A)・B・C]

- ・ 月見橋より下流と上川原橋より上流については改修済みである。
- ・ 幸橋の架替えが完了しており、平成30年度には樫橋の架替も完成した。
- ・ 月見橋から上川原橋間の市街地部における掘削工、護岸工を実施している。
- ・ 河川改修延長5,770mのうち、平成30年度までに5,587mが改修済みである。
- ・ 未整備区間については、周辺に小学校、幼稚園、病院など洪水被害から守らなければならない施設があることから、河川改修の必要性は高く、早期の事業完了に向け工事を進める。

(2)期待される効果 [評価(A)・B・C]

- ・ 本事業により、河川断面狭小区間が解消されることで、沿川の浸水被害の軽減を図ることが出来る。

(3)事業を巡る社会経済情勢の現状・変化、地元住民等の意向

[評価(A)・B・C]

- ・ 流域内の開発により市街化が進み、沿川には人家が密集していることから、台風や豪雨による浸水被害を防止するため、河川改修の必要性は依然として高い。
- ・ 地元住民は河川改修事業に対して協力的であり、台風や豪雨による浸水被害を防止するため、未整備区間の早期完成を強く望んでいる。

(4)評価指標の状況 [評価(A)・B・C]

評価指標	採択時(S56)	前回(H26)	完成時(R5)	備考
河川改修延長 5,770m	0m (0%)	3,200m (55.5%)	5,770m (100%)	

【その他参考となる数値】

○過去の浸水実績

発生日	事由	浸水戸数 (戸)	浸水面積 (ha)	最大日雨量 (最大時間雨量) (mm)
昭和42年8月	豪雨	25	90.0	123 (*)
昭和44年8月	豪雨	530	520.0	()
平成10年8月	豪雨	4	445.0	146(55)
平成26年7月	豪雨	0	0	146(27)

(5)費用対効果の状況・要因の変化 [評価(A)・B・C]

$$B/C = \frac{181.6 + 1.3}{89.7 + 11.0} = \frac{182.9}{100.7} = 1.82 \text{ (前回値 1.85)}$$

- ・ [B]河川事業における総便益(氾濫防止便益+残存価値の合計)
- ・ [C]河川事業に要する総費用(河川改修に要する事業費+河川維持管理に要する費用の合計)
- ・ 評価基準年度の見直しにより、総便益、総費用ともに増加したが、総便益に比べて総費用の増加率が大きかったことから、費用対効果は減少した。

(6)コスト削減の取組・代替案の検討状況 [評価(A)・B・C]

【コスト削減の取組】

- ・ 近隣他工事への発生土流用を積極的に進めている。

【代替案の検討状況】

- ・ 一般的に貯留施設や放水路等の整備が考えられるが、流域内には洪水調節施設の整備適地がなく、現河川改修案以外の方法は考えられない。

3 評価

(1)県の対応方針案

(2)理由

事業継続

未整備区間については、周辺に学校など洪水被害から守らなければならない施設があることから、今後も計画的に事業を進め、早期の事業完了を図る必要がある。